

第3回 生息環境専門部会

◆ タンチョウの生息環境構築に向けた、舞鶴遊水地での取組について議論！

- 開催日時：平成31年2月22日（金） 10:30～12:20
- 実施場所：札幌開発建設部 会議室
- 出席者：計19名（うち委員6名、オブザーバー1名）



【会議の様子】

検討内容

【タンチョウの飛来状況等】

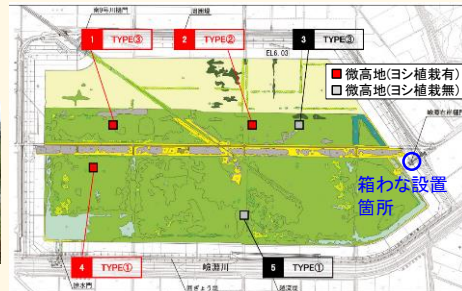
- 平成30年度は、舞鶴遊水地やその近傍で多くの飛来を確認。
- 取組開始後、長沼町で初めて冬季にタンチョウを確認。



撮影：正富委員

【舞鶴遊水地及び千歳川流域の自然環境】

- 昨年度造成した微高地にヨシの植栽を実施。
ヨシの生育を確認するが、外来種や木本種の侵入も確認。
- タンチョウの営巣及び採食適性について流域の適性評価を実施。



【タンチョウの生息環境の改善】

- アライグマの生息状況をモニタリング調査し、遊水地には馬追丘陵側から浸入していると分析。
- 樋門に箱わなを設置した結果、7頭のアライグマを捕獲。



- タンチョウの電線衝突事故防止に向けて、優先的に対策を実施すべき箇所等を現地立会にて確認。



【対外情報発信】

- ポスター、チラシ、Webなどの情報発信の取組方針を提示。
- タンチョウ定着前後でのタンチョウ飛来に関する情報発信ルールを提示。



【舞鶴遊水地への人の関わり方】

- 野鳥観察や環境管理等の舞鶴遊水地への人の関わりについて提示。

【平成31年度の調査等】

- 次年度のモニタリング調査、維持管理予定を提示。

【総括】

- タンチョウ定着の可能性は高まっている。
- 長沼町の取組は、様々な場面で照会される成功事例。
- 一方、舞鶴遊水地だけに収まってはネットワークとはならないので、流域全体を視野に入れる必要がある。



座長 中村 太士 教授

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

第3回 生息環境専門部会 議事概要

〔日 時〕：平成31年2月22日（金）10：30～12：20

〔会 場〕：札幌開発建設部 会議室

〔出席者〕：計19名（うち委員6名、オブザーバー1名）

（1）タンチョウの飛来状況等について

○長沼町内で冬季の飛来が確認され、長沼町のタンチョウ定着の可能性は高まっている。

（2）舞鶴遊水地及び千歳川流域の自然環境について

○タンチョウの営巣適性のモデルで樹林があると評価が高くなるのは、道東では過密状態で本来の適地ではない場所で営巣している事例が組み込まれているためという可能性もある。

○舞鶴遊水地内だけでは冬季の採食資源が足りていないと思われる。対策として、冬季の開放水面を拡大する、周辺農地の作物を刈り残すなどが考えられる。

（3）タンチョウの生息環境の改善について

○アライグマ対策は、農業被害対策のみでは効果が限定的となりやすい。大分県大分市ではウミガメ保護活動をするNPOとの連携により対策が進展している。長沼町でもタンチョウ保護を目的として町全体で連携して対策を進めることが有効。

○電線衝突事故防止については、是非進めてほしい。

（5）舞鶴遊水地への人の関わり方について

○銃猟禁止などの法的な指針も検討していくべきではないか。

（6）平成31年度の調査等について

○遊水地での樹木伐採などの工事は、鳥類の繁殖期に留意してほしい。

○ボランティアに双眼鏡などを貸与し、タンチョウの撮影等を委嘱してはどうか。

○冬季の開水面の湧水状況等を把握する必要がある。

【総括】

○タンチョウ定着の可能性は高まっている。

○長沼町のタンチョウも住めるまちづくりは様々な場面でも紹介される成功事例。

○一方、舞鶴遊水地だけに収まっていたのではネットワークとはならないので、流域全体も視野に入れていく必要がある。